



進路だより



R2年度 11月号

～ 2020年の締めくくりの時を迎えて ～

今年も残すところ、あと1か月ほどになりました。この2020年はどんな年になったでしょうか？高校生活とは不思議なもので、時間の経過がとても早く感じるものです。「運動会があって中間考査が終わってからはや2か月もたって、もう期末考査だ！」という感覚でしょうか。一日一日を大切に、できる限りの対策を練って期末考査に臨みましょう。3年生の皆さんは、大学入学共通テストまであと約50日。体調管理に気を付けて、悔いのないよう頑張ってください。

1・2年生は来年度の科目選択を行う時期です。理科や地歴は、何を選択しようか迷っていませんか？特に1年生の普通科の皆さんは、「文型に進むか？理型に進むか？」という大きな悩みをもっている人も多いと思います。

そこで今回は、進路実現に向けて「悩める後輩たちのために一肌脱ごう！」と、2・3年生の進路委員の先輩方が届けてくれたアドバイスをまとめました。

「自分はこのような基準で選んだ」

○文型

- ・自分の教科の好き嫌いで決めない。
- ・文型にしかない教科が必要だったから。
- ・大学受験で必要な教科に応じて選んだ。
- ・得意分野を伸ばせるから。
- ・将来の夢に近づくから。
- ・3年生で芸術を選択することもできる。
- ・歴史を深く学びたかったから。

○理型

- ・科目の好き嫌いで選ばないほうがいい。
- ・将来なりたい職業、行きたい学部で選んだ。
- ・将来、薬学や医療を学びたかったから。
- ・志望する大学を受験するために数Ⅲがいるから。
- ・数学、理科、英語を伸ばしたいと思ったから。
- ・物理を学びたいから。

「選択して良かったこと」

○文型

- ・世界史Bに出会えた。
- ・古典を楽しめること。
- ・数学の進度がゆっくり丁寧に学べる。
- ・英語と国語の授業数が増え、理解が深まった。
- ・社会に対して関心が高まった。
- ・文型は教室が1階なので、購買まで近い。

○理型

- ・今、勉強、研究していることが直接、将来の仕事に結びつきやすい。
- ・理科が2科目できてうれしい。
- ・1年で学んだ理科基礎の内容と今習っている理科の内容が関連して理解が深まった。
- ・数学好きの人が多くて楽しいこと。
- ・数学ⅠAⅡBで難しくてなかなか解けなかった問題が、数学Ⅲで学んだ方法で簡単に解けるようになった。
- ・YouTubeの理系ネタを笑うことができる。

自分の志望校の入試科目についてもよく調べて、悔いのない類型選択・科目選択をしてください。

【報告】第1回教養アップ講座 「データの事例と活用」

11月6日（金）の放課後に、講師として姫野哲人先生（滋賀大学）をお迎えして、講演を行いました。1、2年生80名を超える生徒が参加し、関心の高さが伺われました。身の回りにあるデータ活用の事例では、データサイエンスが普段気づかないところで社会生活に役立っていることに参加者一同、認識を新たにしました。

後半は、データの収集・比較、分析について、それらのポイント・留意点など具体例を踏まえながらのお話でした。また、講座の最後には、本校卒業生で滋賀大学の支援を受けながら起業したデータサイエンス学部4回生の井本望夢さんがオンラインで参加し、後輩へのメッセージをいただきました。CRやDSで行き詰まりを感じている生徒に大きなヒントになるとともに、進路選択の一つとしたいという生徒、先輩の活躍に勇気をもらった生徒もあり、大変貴重な1時間となりました。受講した生徒の感想を紹介します。



・データサイエンスという言葉から難しいイメージを持っていました。しかし、お話を聞いているうちに身近なところでたくさん使われており、また企業での分析は売上向上や効率化だけでなく、廃棄量を減少させるなど、また違う学問分野にもつながることを知り、これからどんどん大切になっていくのだと思いました。データの事例を教えてください、最初は理系だと思って聞いていましたが興味がとても湧き、これからいろいろなデータを見るときの見方が変わって楽しみになりました。また、ちょうどCRでこれからアンケートをとろうと思っていたところで、統計をとるときに注意点や目的などをもう少し明確にして取り組みたいと思いました。井本さんのお話も、本当に貴重なお話を聞かせていただいて、私たちと年齢の近い方でこんなにすごいことができることを知れて良かったです。

【報告】第2回教養アップ講座 「愛媛大学農学部での先端研究」

11月10日（火）の放課後に、講師として愛媛大学農学部長山内聡教授（生命機能学科）、羽藤堅治教授（食料生産学科）、伊藤和貴教授（生産環境学科）をお迎えして、講演を行いました。約70名の生徒が参加し、農学部での学びの特徴と先生方の研究の一端を紹介していただきました。分野・学科を越えた共同研究が活発に行われており、SDGsやSociety5.0とからめながら、植物のつくる有機物の機能や、スマート農業の可能性、森林バイオマスの様々な活用などについてのお話でした。質疑応答の時間を多めにとり、生徒の疑問に丁寧に答えていただくことができました。受講した生徒の感想を紹介します。



・現在、僕が志望している学部は工学部ですが、農学という学問の中で化学を扱っている先生方のお話を聞くことができる貴重な機会だと思い、今日の講座に参加しました。農学部の化学・物理・生物・データサイエンスなど、多くの学問を複合的に扱うというお話を聞いて、最後までワクワクしていました。特に、伊藤教授の、木は溶かせる、紙にできる、発泡スチロールにできるというお話には驚きました。特に「木を溶かす」が自分の中の当たり前を壊し、農学部にも興味を持ちました。今日はありがとうございました。

・「人を含めて生物は化学工場である」今回の講師の山内先生は、生物分野と有機化学分野が密接に結びついていることを述べられた。また、羽藤先生は、経済発展と社会的課題の解決を両立する「Society5.0」を農業や食糧生産をはじめ、多岐にわたって次世代を担う分野に活用することによる利益、将来像を説明していただいた。伊藤先生は、バイオマス資源、特に木材バイオマス資源の利用と新しい可能性について紹介して下さった。私は将来、農業に携わる職業に従事したいと考えており、今回の教養アップ講座に参加した。生物や物理、地学、有機化学など非常に広い分野をカバーする農業の発展に貢献できるよう、学習をしっかりと行いたい。